

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	明星保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成29年 6月29日

総 評	<p>社会福祉法人宇治明星園 明星保育園は、法人の設立精神に基づき「地域に開かれた 地域に根ざした 地域住民に支えられた施設づくり」を目指して宇治市の保育の一翼を担ってこられました。</p> <p>また、明星保育園は、「ひとりはみんなのため みんなはひとりのため」という保育園としての理念と「ともに生活する仲間として子どもを捉える」という方針のもと、子どもが自らの力で成長できる保育を実践されています。</p> <p>園舎は、昭和52年に開設した当時の面影を残す木造造りで、押入れを改造して秘密基地のような空間を作り出す等、子どもたちが創造力を活かして遊べるよう配慮されていました。</p> <p>園庭には、木々が多く植えられ、築山をはじめ子どもたちが水や土を使って「どろんこ」になって遊べる環境が整えられていました。</p> <p>また、年長児が乳児のお手伝いをする縦割りのつながりや雑巾を年長児が次の年長児にバトンタッチする「ぞうきんそうじ」など子ども同士の関わりを意図的に作るなど友達を思いやる気持ちを育む保育として評価できます。</p> <p>訪問調査においても職員が子どもと話しをするときに自然と視線を合わせ子どもの話をしっかりと聴いている姿や、全体でリズムに取り組むときは、うまく行かない子にそっと寄り添う姿などから「ゆっくり育てる保育の姿勢」が伺えました。</p> <p>職員の労働環境は、「配置人数を増やし、子どもと向き合う時間を確保する」ことや「会議や委員会は、勤務時間内に開催する」など、多くの配慮がされていました。また、産前産後休業や育児休業については、復帰後を見据えた取り組みがなされており、職員にとって働きやすい状況に配慮されていました。</p> <p>一方で、後述の改善が望まれる点に加え、マニュアルの定期的な見直しや研修体系の整備等に課題がありました。</p> <p>今後も子どもたち一人ひとりの発達を大切にする、質の高い保育実践の持続発展に期待いたします。</p>
-----	--

<p>特に良かった点(※)</p>	<p><b>Ⅱ-3-(1)①②地域との関係が適切に確保されている。</b>  ①地域に対する園庭開放やクリスマス会、夕べの集いなど地域と交流する機会が年に複数回あります。また、近隣にある万福寺境内の散歩をはじめ、地域の社会資源を有効に活用していました。  ②事業所が有する機能の知己還元の一環として、地域の方が親子で来園する機会を設け、自然な形で相談できる態勢がとられていました。また、未就園児への園庭開放やテント等の設備貸出など保育園が有する設備を日常的に地域に還元していました。</p> <p><b>Ⅳ-1-(1)⑤食事を楽しむことができる工夫をしている。</b>  木の温もりが感じられる部屋で柔軟な使い方ができる机や椅子を選び、食事を落ち着いて楽しむ環境がありました。年長児は給食の献立を調理室に聞きに行く当番、年中児は野菜の皮をむく当番活動を日々行い、子ども達が献立や調理など食に興味を持つ工夫がなされていました。</p> <p><b>Ⅳ-1-(3)③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。</b>  保育方針のひとつに「豊かな体験を通じて、意欲的、創造的に遊べる子ども」と謳われ、園内では押入れを改造して基地のように遊べる空間にしたり、園庭では築山や多くの木々があり、水・砂・土など変化する素材で自由に遊べる工夫がなされていました。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p><b>Ⅰ-3-(1)①②管理者の責任が明確にされている。</b>  ①園長自らの責任と役割は、事務分掌、組織図等に明文化されてきました。また、毎月発行される機関紙「みょうじょうたより」で表明しています。しかし、管理者は自らの行動が職員から信頼を得ているかどうかを把握する方法を持ち得ていませんでした。  ②法令遵守に関する研修会への参加は確認できましたが、関係法令のリスト化ができていませんでした。</p> <p><b>Ⅱ-2-(3)①②職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</b>  ①年間研修計画を策定していましたが、研修や教育の基本方針等は確認できませんでした。組織が職員に求める基本姿勢を明確にするとともにそれに基づくキャリアパス的な研修体系を整備されてはいかがでしょうか。  ②個人の目標管理シートによる自己評価を反映して、研修や教育を実施する仕組みを確認しました。しかし、個人目標を基礎とした研修体系は実施されていませんでした。職員一人ひとりの持つ技量を評価・分析し、個別の研修計画を策定されてはいかがでしょうか。あわせて、個別の研修履歴表を作成することをお勧めします。</p> <p><b>Ⅲ-2-(2)②サービス実施の記録が適切に行われている。</b>  保育実践等は適切に記録され、その記録に対する守秘義務も徹底されていました。しかし、記録の廃棄・開示等に関する規程は確認できませんでした。法人において「記録の取り扱い」及び「開示請求」にかかる規程の確認をし、職員への周知をされてはいかがでしょうか。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【保育所版】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	明星保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2017年3月29日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	C	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	—	—
	I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	C	B
[自由記述欄]				
I-1-(1)	①保育の理念は明文化され、ホームページや「1年のあゆみ」に記載されている。法人・保育所の目指す方向を読み取ることができる。 ②理念に基づく基本方針及び保育目標が明文化され、園のしおり、ホームページ等に記載されている。職員の規範となるよう適切な内容となっている。			
I-1-(2)	①毎月実施される職員会議及び毎週の定例会議で周知をしている。 ②年度初めの保護者会総会及び入園・進級式で説明をしている。			
I-2-(1)	①非該当			
I-2-(2)	①保育課程は、保育の基本法人に基づいて編成されている。保護者の意向については、クラス懇談等の中で聞き取っている。 ②保育課程に基づき、年間指導計画と短期指導計画が策定されている。 ③保育課程は、中間総括により振り返りが行われ、必要な修正が実施されている。毎月実施される職員会議で確認をしている。 ④保育課程や指導計画は、クラス担当者会議等により吸い上げた職員の意見を反映している。 ⑤保育課程や指導計画は、入園説明会後のクラス懇談会で説明するとともに毎月発行される機関紙「みょうじょうたより」で伝えられている。			
I-3-(1)	①園長自らの責任と役割は、事務分掌、組織図等に明文化されている。毎月発行される機関紙「みょうじょうたより」で表明している。しかし、管理者は自らの行動が職員から信頼を得ているかどうかを把握する方法を持ち得ていない。 ②法令遵守に関する研修会へ参加はしているが関係法令のリスト化ができていない。			
I-3-(2)	①半期ごとに実施される総括の機会を利用して職員から意見を聞き、環境や設備等に対する必要な改善について指導力を発揮している。 ②管理者は、フリーの保育士を配置するなど働きやすい環境整備に努めている。しかし、定期的に分析を行い、経営状況の把握は不十分である。			

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
		③ 定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	B	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	B	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	B
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	B	B
【自由記述欄】				
II-1-(1)	① 行政や京都府保育協会等を通じて全体動向の把握に努めている。しかし、市域における状況把握には至っていない。			
II-2-(1)	① 職員ごとに目標管理を行い、その評価を通じて人材育成を行っていたが、全体的な人材育成に関する方針等は確認できなかった。			
II-2-(2)	① 年1回、目標管理シートを活用し、園長と主任が職人に対してヒアリングを実施し、就業状態の改善に努めている。 ② 京都市民間社会福祉施設職員共済会への加入や、互助会を通じて年間一定額の被服費を支給するなど、福利厚生事業を実施している。			
II-2-(3)	① 年間研修計画を策定していたが、研修や教育の基本方針等は確認できなかった。 ② 個人の目標管理シートによる自己評価を反映して、研修や教育を実施する仕組みを確認した。個人目標を基礎とした研修体系は実施されていなかった。 ③ 研修受講後の報告及び伝達研修は行っている。研修成果に関する評価・分析をし、次年度に反映している。			
II-2-(4)	① 実習生受け入れマニュアルを整備するとともに、実習生の受け入れにあたっては、保育士の後継者育成という理念を持ち、職員全員がその意義を理解した上で実施している。 ② 実習に係る打ち合わせや振り返りを行うなど大学等との連携を行っている。			
II-3-(1)	① 園庭開放やクリスマス会、タペの集いなど地域と交流する機会が年に複数回ある。近隣にある万福寺境内の散歩をはじめ、地域との相互理解のもと社会資源を有効に活用している。 ② 園庭開放以外に月に1度、地域の人が親子で来園する機会を設け、自然な形で相談できる体制がとられている。未就園児への園庭解放やテント等の設備貸出など保育園が有する設備を地域に還元している。 ③ 中高生をはじめボランティア受け入れは積極的に実施していたが、受け入れマニュアル等は確認できなかった。			
II-3-(2)	① 宇治市内の子育て機関や児童相談所等、必要な社会資源は情報共有されていたが、そのリストや資料作成の状況は確認できなかった。			

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	C	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	B	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	B
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	C	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	B
[自由記述欄]				
Ⅲ-1-1-(1)	①「プライバシー保護の取扱いマニュアル」が整備がされている。職員会議等で職員への周知を図っている。			
Ⅲ-1-1-(2)	①職員室前にポストを設置するだけでなく、直接話を聞く体制など苦情を受ける手段があり、その結果についてはプライバシーに配慮した上で「おたより」を通じて公表している。 ②保護者からの意見や提案への対応マニュアルを整備している。チャート図を作成し、保護者からの「意見」や「苦情」には迅速に対応していた。しかし、マニュアルの定期的な見直しがされていなかった。			
Ⅲ-2-(1)	①定期的に第三者評価を受診している。前回の評価を踏まえて保育課程を作成している。 ②保育士の自己評価は実施されていたが、保育所の評価は実施されていなかった。定められた評価基準が確認できなかった。			
Ⅲ-2-(2)	①子どもの身体状況や生活状況は、児童票、保護者連絡票によりアセスメントを行っており、定期的見直しも実施されている。 ②保育実践等は適切に記録され、その記録に対する守秘義務も徹底されている。しかし、記録の廃棄・開示等に関する規程は確認できなかった。 ③毎月の責任者会議（園長、主任、3部会責任者）や職員会議等で子どもの発達や保育目標等について情報共有されている。			
Ⅲ-3-(1)	①園のしおり以外にもホームページやFacebookを活用し、保育園の情報を提供している。 ②園の方針がわかりやすくまとめられた「入園のしおり」を作成して、保護者への説明を行っている。			
Ⅲ-3-(2)	①就学時には引き継ぎ文書があるが、転園時にはない。他園への転園等にあたっては、保育の継続性に配慮し、健康記録などを渡している。その後の相談などは継続できる体制はとっているが、その内容を記載した文書は確認できなかった。			

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

**[自由記述欄]**

IV-1-(1)	①健康管理に関するマニュアルが整備されていた。体調のすぐれない子どもは、常勤看護師を雇用し、一人ひとりの健康状態に応じて丁寧な対応をしている。
	②健康診断、歯科健診は年に2回、身長・体重の測定は月に1回実施され、診断結果を保育や家庭保育に反映されている。
	③歯科検診についても同様に十分に周知、反映されている。
	④感染症に関するマニュアルが整備され、門の前に掲示するとともに年度初めに乳幼児室の消毒を実施するなど感染症予防対策がなされている。
	⑤木の温もりが感じられる部屋で柔軟な使い方ができる机や椅子を選び、食事を落ち着いて楽しむ環境がある。年長児は給食の献立を調理室に聞きに行く当番、年中児は野菜の皮をむく当番活動を日々行い、子ども達が献立や調理など食に興味を持つ工夫がなされている。

IV-1-(1)	<p>⑥月に1度の給食委員会で現場の意見を反映されている。おやつはできる限り手作りを心がけているとともに旬のものやリクエストメニューを随時取り入れている。</p> <p>⑦「給食参加」や「誕生会」などに保護者が参加している。ホームページに「給食で大切にしていること」というコーナーを設け、給食室から様々な情報を発信すると同時に、園内にも「朝食の重要性」、「栄養バランス」等について掲示して保護者に伝える工夫をしている。</p> <p>⑧入園説明会でも説明をし、個々に適切な対応を行っている。また、対象児童については、診断書が提出されている。</p>
IV-1-(2)	<p>①保育室は清潔に保たれている。遊具等は毎月点検を行うとともにガラスには危険防止のシールを貼るなど子どもの視点で安全確保への工夫がなされている。</p> <p>②子供たちがくつろいだり落ち着けるよう配色や音に配慮している。職員の誰かが必ず見守るようにしている。</p>
IV-1-(3)	<p>①子ども達にとって保育士は「生活を共にする仲間である」という考えで接している。一人ひとりに寄りそい自然体で接するという姿勢を大切にして、子どもの視点で話すということが徹底されている。</p> <p>②0歳児室に新たにお尻洗いの設備を備え、排泄後すぐに清潔にして子ども達が気持ちよさを実感できるようにするなど、無理のないトイレトレーニングが実施されている。</p> <p>③保育方針のひとつに「豊かな体験を通じて、意欲的、創造的に遊べる子ども」と謳われ、園内では押入れを改造して基地のように遊べる空間にしたり、園庭では築山や多くの木々があり、水・砂・土など変化する素材で自由に遊べる工夫がなされている。</p> <p>④毎日の散歩や年長児がウサギ小屋を掃除するなど、自然や環境と十分にかかわっている。</p> <p>⑤保育方針に基づき、身体づくりや感性を育てる目的で日々リズム遊びがされている。また、運動会や社会体験などについて子どもたちが「からだ全体」を使って表現できるよう、体験を基とした絵画作成など創作活動が行われている。</p> <p>⑥登園児や延長保育の際には、年齢を区切ることなく交流したり、年長児が幼児クラスのお世話をするなど縦のつながりも考えながら取り組んでいる。保育方針のひとつに「自分のことは自分でできる子ども」と謳われ、食事や清掃の当番活動などに取り組んでいる。</p> <p>⑦外国籍の異文化の子供たちなどとも自然に仲良くできるよう取り組まれている。</p> <p>⑧男女差を感じさせるような対応はしていない。男の子でも女の子でも同じように何でも取り組むことができるように配慮している。</p> <p>⑨畳のフロアと木床のフロアからなる乳児室は採光がよく床暖房で、お尻洗い室も新たに設置され、乳児保育に適切な環境整備がされている。</p> <p>⑩環境が大きく変わらないよう配慮をしている。長時間保育では、夕食の提供が必要な時間までの受け入れはしていないが捕食を提供している。長時間保育になる場合は、子どもが不安にならないように縦割り集まって遊ぶなど工夫し、一人ひとりの様子に配慮している。</p> <p>⑪クラスの中で育まれるようにするとともに必要な人員配置を行っている。個人懇談なども活用しながら、十分に配慮されている。</p>



## IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	B
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当
[自由記述欄]				
IV-2-(1)	①送迎時に保護者との情報交換に努め、個別懇談、クラス懇談や家庭訪問(年1回)が実施されている。			
	②保護者との情報交換の内容は保育日誌などに詳細に記録されている。			
	③親子遠足、運動会、生活発表会など親子参加の企画があり、保護者との共通理解を深めることを大切にされている。			
	④⑤児童虐待に関するマニュアルが整備され、登園時の観察は特に注意を払われていたが、マニュアルに基づく職員研修が未実施である。児童相談所など通告にあたっての連絡先は明示されている。			
	⑥保育記録に指導計画に基づくサービス内容は日々状況が詳細に記録されている。(「みんなのなかで育つ全体の中の個人」という考えから個人のケース記録はつくっていない。)			
IV-2-(2)	非該当			

## IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	C	B
[自由記述欄]				
IV-3-(1)	①衛生管理に関するマニュアルは整備され職員研修も実施されている。			
	②食中毒の発生時における対応マニュアルを整備し職員へ周知を図っている。			
	③安全教育として、避難訓練(月1回)や交通安全教室(年1回)が実施されている。マニュアルの定期的な見直し等は確認できなかった。			
	④事故や災害時に対応できるマニュアルは整備されている。			
	⑤不審者の侵入防止のため門にはモニターが設置されている。マニュアルは整備されていたが、定期的な見直しは確認できなかった。			